

特集

肌で感じた異文化体験 第9回 中学生海外派遣

町では、21世紀を担う子どもたちに、国際感覚を身につけてもらおうと平成11年から中学生を海外に派遣しています。

今年も8月10日から17日までの8日間、生徒22名がオーストラリアのケアンズに派遣されました。

参加した生徒たちは、「ホームステイ」や「学校訪問」を通して、外国の文化や歴史、生活習慣などに直接触れ、「コミュニケーションの大切さや、国際理解のための英語力養成など貴重な体験をしました。

参加した生徒の皆さんに海外派遣後のアンケートをとりましたので、ここで紹介します。



ケアンズステイト・ハイスクール中庭で記念写真



実際に英語の教材を使った授業

全 日 程 表

	月/日	宿泊等	スケジュール
1	8/10(金)	上三川町 成田空港 (機内泊)	午後2時出発式後成田空港～ オーストラリア・ケアンズへ
2	8/11(土)	ケアンズ着 (ホームステイ)	ホストファミリーとの対面式 (ホストファミリーデー)
3	8/12(日)	ホームステイ	ホストファミリーデー
4	8/13(月)	ホームステイ	学校訪問・体験授業
5	8/14(火)	ホームステイ	学校訪問・体験授業
6	8/15(水)	ホームステイ	グリーン島研修 (世界遺産グレートバリアリーフ)
7	8/16(木)	市内ホテル泊	キュランダ村研修 (世界遺産ディンツリーフォレスト 及びアボリジニの文化)
8	8/17(金)	ケアンズ 成田空港 上三川町	空路、ケアンズから成田空港へ バスで上三川町へ

参 加 者

所 属 名	氏 名
本郷中学校	粕田 恭平
	金子 敏輝
	齋藤 千春
	谷津 祥美
	加藤 里菜
上三川中学校	坂入 美穂
	奥野 弘稀
	坂本 直仁
	大出 康平
	濱田 侑輝
	荒川菜々子
	上野 侑香
	大橋 美希
	川島 彩貴
	津浦 篤司
明治中学校	上野 龍汰
	岡田 萌
	落合実裕希
	篠原 愛
	稲葉沙央莉
	高橋 美香
永盛 愛美	
団 長 (明治中学校長)	富田 恒男
生徒指導担当 (本郷中学校教諭)	松本 浩子
事務局 (教育委員会)	海賀 康

今回の研修にあたってのアンケートは、

①この研修で学んだことは何ですか？

②今後どう生かしていこうと思いますか？

③今回の研修で一番印象に残っていることを短歌で表現してください。

と参加した中学生に3つ質問をし、回答していただきました。

本郷中学校 粕田 恭平

- ①外国の方々とお互いに理解し合うためには、自分の国のこともしっかりと知っていなければならないということ。
- ②世界に広く目を向け、他国の文化を大切に、国際協力や国際平和について積極的に学んでいきたい。
- ③外国の家族と一緒に生活し、英語で話すその難しさ

本郷中学校 金子 敏輝

- ①時と場合に応じた態度の取り方の大切さや、コミュニケーションの手段は、言葉だけではなくジェスチャー。
- ②学校生活だけではなく、地域や日常生活にも、人と人とのつながりを大切にして、積極的に関わっていきたい。
- ③初めての生徒だけの異国の地、新たな友との思い出たくさん

本郷中学校 齋藤 千春

- ①オーストラリアの文化はもろろん、お

互いの気持ちや考えを知るためにコミュニケーションをとることの大切さ。

- ②もっと自ら積極的に行動することや、しっかりと自分の意見を持つるよう、普段の生活から心がけたい。
- ③心の輪世界に広げたホームステイ

肌で感じた言葉より気持ち

本郷中学校 谷津 祥美

- ①コミュニケーションをとることの大切さと、伝えたいと言つ気持ちをもち、工夫して伝えること。
- ②コミュニケーションの大切さが分かったので、積極的にたくさんの人と関わっていきたくと思う。
- ③はじめてでガチガチなとき温かく

接してくれたホストファミリー

本郷中学校 加藤 里菜

- ①たとえ文化や言葉が違ってても、お互いを理解し合う気持ちと伝えようとする気持ちがあれば分かり合えること。
- ②疑問に思ったことや興味を持ったことに重点を置き、さらに深く調べ様々な知識を得る。



民族楽器演奏に挑戦

③世界中どんなに違う文化でも無数の星でつながっている

本郷中学校 坂入 美穂

- ①何事にも興味を持ち、恥ずかしがらずに積極的に行動することが大切だということを学んだ。
- ②語学を身につけ、将来の夢であるツアーコンダクターに一步でも近づけるように頑張りたい。
- ③五日間やさしさあふれるファミリーと過ごした思い出宝物

過した思い出宝物

上三川中学校 奥野 弘稀

- ①文化や言葉が違っていても、いろいろな人がいるなことに熱中するのは、どの国も一緒だと思います。
- ②言葉が違ってても、伝えようとする気持ちがあれば、結構伝わるので頑張っていきたいと思います。
- ③旅先のサンゴのうみをふんだん足

そのかんしよく日本の夏へ

上三川中学校 坂本 直仁

- ①資源を大切に、自然を守る環境への取り組みを学び、独自の文化・食生活や教育制度の違いを知った。
- ②広い視野で物事を捉え、探求心を持って知識を深め、国際交流にも積極的に関わっていきたいと思う。
- ③明るさと笑顔で接す気くばりの迎える姿豪に学べり

上三川中学校 大出 康平

- ①会話の大切さを学びました。自分の意

見に気持ちを込めて伝えれば、必ず相手に伝わるコミュニケーションの大切さを学びました。

- ②会話、コミュニケーションをとるとき、言葉の省略や現代的な話し方で話さず、相手の気持ちを考えて話したいです。
- ③会話をし心と心が通じ合う仲間ができるコミュニケーション

仲間ができるコミュニケーション

上三川中学校 濱田 侑輝

- ①ホストファミリーとの生活では、家族の大切さを学び、グリーン島とキユラン夕村では、自然の雄大さを学びました。
- ②自分から積極的にいろいろな人と話したり、交流したりしてコミュニケーションをとろうと思いました。
- ③本当はもっと話したがかった単語並べて悪戦苦闘

単語並べて悪戦苦闘



日本語の授業中に会話

上三川中学校 荒川 菜々子

- ①言葉や文化、生活環境が違っても、理解しようという気持ちがあれば心と心を通じるといことが分かりました。
- ②この貴重な経験を活かして、積極的に外国人とふれあい、将来外国語を使う職業に就きたいと思っています。
- ③ほ乳瓶いつもくわえて走ってる

My new brother
裸足のアイタン

上三川中学校 上野 侑香

- ①改めて日本の文化の良さを学びました。オーストラリアの自然から、自然の大切さも学びました。
- ②今後、このオーストラリアの研修で学んだことを、多くの人に伝えていきたいと思っています。
- ③改めて感じる家族の温かさ

日本の食も少しなつかし

上三川中学校 大橋 美希

- ①家族、友達の大切さ、英語の難しさ、英語の楽しさです。
- ②家族、友達を大切にして現地で学んだ素晴らしい文化を、そして人々の素晴らしい心を見習っていききたいと思っています。
- ③ケアンズの人たちみんな温かく

家族のようにむかえてくれた

上三川中学校 川島 彩貴

- ①積極的に自分から話をすることで、感情を素直に言葉で伝えることが、人を思いやることの大切さ。



『よさこいかみのかわ』を一緒に踊りました

- ②研修で学んだことを、生活の中で実行していき、そのことを多くの人に教えてあげて、一緒に実行したい。
- ③人と人話す言葉は違うけど心と心で通じ合える

明治中学校 津浦 篤司

- ①気候や面積が違うだけで、衣食住の形が変わってしまうこと、日本人とオーストラリア人との思考の違い。
- ②オーストラリア人の前向きな姿勢と明るい性格を取り入れて、自分の目標のために積極的な行動を心がけたい。
- ③ホームステイほとんど会話がイェスとノー

身ぶり手ぶりで意思表示した

明治中学校 上野 龍汰

- ①英語でのコミュニケーションをとるこ

- との難しさで、日本との文化や学校生活の違いと、相手を思いやる心です。
- ②誰とでも笑顔で接し、責任のある行動をとり、今回の経験をもちに、もっと英語を頑張っていきたいと思っています。
 - ③習慣や言葉の違い乗り越えて絆深めた海外派遣

明治中学校 岡田 萌

- ①人とのコミュニケーションの大切さと自分の言葉と相手の言葉が違っていて、多少でも伝える、理解しようとする心。
- ②日本で外国人との交わることがあったときや、外国へ行ったときなどに一言でも多くの会話ができるようにしたい。
- ③生活や人の言葉はちがっても変わらないのは人の優しさ

明治中学校 落合 実裕希

- ①生活様式や食生活などの日常生活の違いを体験して、日本の良さを再確認し、言葉は違っても心は通じ合うこと。
- ②自分の知らないことを積極的に学び、受け入れる努力と海外から来ている人



お別れパーティーで習字を指導



お世話になったホストファミリーと1枚

- に日本を知ってもらおう行動をしたい。
- ③青空と海の輝きあたたかさ

笑顔と感謝心に刻む

明治中学校 篠原 愛

- ①言葉や文化が違ってても、伝え合う心があれば必ず伝えられて、仲良くなれる。どんなときも心が一番大切だということ。
- ②人と素晴らしい人間関係を築くには、自分も心を開いていくこと。そして、責任感を持ち、相手を思いやることを忘れないこと。
- ③初体験日本との違いに戸惑っけれど笑顔でつながる人との絆



キュランダ村で記念植樹

- 笑顔満開海に咲く
- ③ 澄んだ海キレイな色のサンゴ礁
- ② いろんな人との積極的に接し、交流の場を増やしていきたい。
- ① 積極的にコミュニケーションをとる大切さ。人と思いやる心と感謝する心。
- 現地の人をあたたかい心
- 明治中学校 永盛 愛美

- ③ 悲しみをこらえながらも手を振って家族と別れる切なさかな
- 明治中学校 高橋 美香
- ① たとえ言葉がうまく伝わらなくても、伝えようとする思いがあれば相手には伝わるということ。
- ② 自分の英語に自信が持てたので、これからは、英語の授業を今まで以上に頑張るって、英語力を高めていきたい。

- 明治中学校 稲葉 沙央莉
- ① コミュニケーションの取り方は、言葉が全てではないということ。
- ② 「進んで積極的に！」と、改めて実感したので、全てにおいて自分から進んで何でもやっていきたいと思う。

身に付き始めた国際感覚

団長 富田 恒男 (明治中学校長)

「一人一人が小さな紳士・淑女として振る舞うこと」というテーマの元に、団員22名は、ホームステイやケアンズステイト・ハイスクールでの授業参加等に臨みました。

海外旅行は、ほとんどの生徒が初めてということで、帰国までにどんな国際感覚を身につけてくれるか楽しみでしたが、ホストファミリーとの会話のやり取り、ケアンズ校での英語研修・パディとの交流・パフォーマンス等、さすがに各学校から選ばれた生徒の素晴らしい順応性に驚かされました。そして、生徒たちは、しだいに、自分のことは自分が責任を持って管理する「自己管理能力」や自分達の置かれている状況を捉える「現状把握力」という国際感覚を身に付けたようです。

今回の海外での貴重な体験が、国際感覚を十分に身につけた、将来の上三川町のトップリーダーとしてのバックボーンとなってくれることと確信しています。



キュランダ村で富田団長と一緒に…
(上列左端2番目)

報告会

8月24日(金)に、報告会が開催されました。

貴重な体験をした中学生たちは、「人種や言葉、生活習慣が違ってても理解することで解決できる。」「生活が慣れるにつれて、難しい言葉が出てきて、辞書やジェスチャーで一生懸命お互いに伝えようとする姿に感動しました。」など、ホストファミリーから気遣いの大切さを。また、英語力を身につけるための語学力強化が必要であることを経験したようです。

また、「食事の時の『いただきます。』などといった文化がオーストラリアには無く、日本の文化の良さを改めて実感しました。」という発言もあり、礼儀に対する日本文化の良さを、再認識したようです。

- これからの課題として報告会の中では、
- ① オーストラリアの良いところを学びましょう。
 - ② 日本の良さを大切にしよう。
 - ③ 感謝の気持ちをもってふれあい、多くの人と交流しよう。
- と3点があげられました。

篠原教育長からは、「自分を磨いて、よい学校、よい地域、よい国際人になっていただきたいです。」と参加した中学生たちに激励の言葉がかけられ、締めくくられました。



貴重な体験を報告する生徒